知財業務における生成 AI 6 モデルの使い分け

知財部門向け実務提案　　2026 年 11 月 19 日

GPT-6.2 Astra

中位モデルは日々の分類、根拠の抽出、初稿作成を担う。上位モデルは、検索の範囲を決めるとき、請求項に残す構成を選ぶとき、競合特許の解釈が分かれるときに使う。上位モデルを投入する時期は、後工程でその判断をやり直せるかを基準に決める。

モデル別に最初に試したい仕事

モデル	公開資料に示された特性	知財業務での担当案
GPT-6.2 Sol **中位**	日常的な複数工程の作業を想定。標準 API の入出力単価は Astra の各 4 分の 1。[1]	新着特許の分類、技術タグ付与、要件対比表の初稿、週報。
Claude Opus 5.5 **中位**	長時間の知識作業に対応。文脈長は Fable と同じ 100 万トークンで、入出力単価は各半額。[2]	発明者面談の記録を発明提案書にまとめ、明細書初稿の用語をそろえる。
Gemini 4 Neon **中位**	PDF、図表、音声、動画を扱い、資料を横断して構造化できる。[3]	図面符号と部材、実験表と測定条件の対応を、出典箇所付きで整理する。
Claude Fable 5.2 **上位**	複雑な推論と、複数段階にわたる科学・工学上の問題に対応する。[2][4]	発明の上位概念、同じ効果を生む別構成、検索で漏れそうな隣接分野を探る。
GPT-6.2 Astra **上位**	原資料から事実を拾い、要求に沿う成果物を作る法律実務評価で好成績を報告。[1]	拒絶理由への応答案を比較し、FTO の争点や経営判断の根拠をまとめる。
Gemini 4 Carbon **上位**	長時間の検討を要する複雑な課題や、探索的な科学研究を想定する。[5]	材料の実施例・比較例に戻り、効果を説明する別仮説と反証条件を探る。

比較の読み方

Artificial Analysis の総合指数では、Neon は推論設定 high で 60、xhigh で 61、Carbon は high で 60 だった。[6]　上位・中位は本稿で用いる区分である。上表の担当案は公開評価から導いた実務上の仮説で、日本語の特許案件で 6 モデルを同一条件で比較した成績は含まない。

先行技術調査と特許出願での使い分け

新着特許の監視と無効資料調査では投入順を変える

毎週の新着特許監視（SDI）では、対象分野と分類基準が決まっている。Sol に各公報の判定理由と根拠段落を記入させ、担当者は境界事例や重要競合の出願を優先して読む。除外群からも抜き取り、見逃した文献の用語や構造を次回の検索式と分類基準に加える。

一方、無効資料調査や新規テーマの先行技術調査では、検索前に Fable を使う。検索観点から漏れた技術は、候補文献をいくら精読しても発見できないためである。半導体材料を対象とする例では、次の順で進める。

工程	担当と具体的な作業
検索観点の設計	Fable に、同じ機能を別の材料名・工程名で表す分野を挙げさせる。調査担当者が候補語と特許分類を確認し、特許データベースで検索する。
候補の絞り込み	Sol が関連度と根拠を整理し、Neon が配合、測定法、数値範囲を原文・表番号とともに抽出する。測定法が不明な文献は保留する。
採否の検討	数値範囲が重なり、測定法が異なる文献では、Carbon に比較可能性と不足資料を洗い出させる。調査担当者が原文と公開日を確かめ、採否を決める。

出願では独立請求項を決める前に代替構成を検討する

Opus が発明提案書と面談記録を基に初稿を作る。独立請求項に「ばね」と書く案なら、Fable には「弾性部材に広げた場合、どの実施形態が根拠になるか」「ばね以外の構成でも同じ効果を得られるか」を検討させる。得られた問いを発明者に戻し、確認した内容を Opus で原稿に反映する。

確認表には、発明者が検討済みの構成、資料に記載がある構成、AI が提案した仮説を記録する。担当者と弁理士は、独立項に残す構成、従属項に置く条件、実施形態として追記する説明を選ぶ。

中間応答では起案と反論を別のモデルに任せる

Astra に拒絶理由通知、引用文献、当初明細書を渡し、「反論のみ」と「補正を伴う反論」を比較させる。各案に、引用箇所、補正の根拠段落、補正で対象外になる実施形態を付ける。重要案件では Fable にも同じ原資料を渡し、Astra の結論を見せずに審査官側からの反論を求める。担当者は判断の分かれた文言を原文で確かめ、応答方針を決める。

FTO の争点整理と導入効果の測り方

工程の順序が争点になる場合

侵害予防調査（FTO）の想定例として、他社の登録請求項に「加熱しながら加圧する」、自社製品の仕様書に「加熱後に加圧する」とある場合を考える。二つの文言だけでは、加圧を始めた時点の装置の動作まで把握できない。

担当	作業	確認できる成果
Sol または Neon	請求項の要件と製品仕様の各記載を並べる。根拠のない欄に「未確認」と記す。	請求項番号、文言、仕様書の該当箇所、未確認事項を含む対比表。
Astra	「加熱しながら」の解釈候補を整理し、明細書・審査経過に照らして各解釈を支持する箇所を示す。	解釈が分かれる理由と、各解釈を採った場合に確認すべき製品の事実。
Fable または Carbon	ヒーター通電中と停止後の余熱を区別するため、必要な装置記録を挙げる。	加圧開始時刻と、ヒーターの通電・温度履歴を照合する技術者向け照会事項。
技術者・知財担当者・弁理士	技術者が実機の事実を確認。知財担当者・弁理士が対象国、基準日、有効な請求項と経過を確認する。	実機について確認した事実、残る不確実性、採用したクレーム解釈と判断理由。

日本案件の審査・登録情報は J-PlatPat でたどれる。[7]　権利の存続が結論を左右するときは、データ反映の時間差も考慮し、必要に応じて登録原簿で確認する。[8]

最初の試行には SDI と中間応答を一つずつ選ぶ

SDI では、過去に人が重要と判定した文献を正解集合とし、そのうち何件を拾えたか、100 件の確認に人が何分かかったかを測る。中間応答では、根拠段落の引用誤り、補正根拠の欠落、弁理士の修正時間を数える。

同じ資料・指示・利用可能な検索手段で、①中位モデル単独、②中位モデルと上位モデルの併用を比較する。モデル名、推論設定、利用費、人の作業時間を記録すれば、追加検討にかかる費用と、見逃しや手戻りの減少を案件ごとに判断できる。

参考文献

閲覧日はすべて 2026 年 11 月 19 日。本文中の番号は下記の文献に対応する。

[1]　OpenAI　Introducing GPT-6.2 Astra and Sol

2026 年 11 月 17 日。法律実務評価 Harvey LAB-AA、モデルの位置づけ、標準 API 料金。

https://openai.com/index/introducing-gpt-6-2-astra-sol/

[2]　Anthropic　Claude Fable 5.2

Claude Platform Docs「Overview」「How it compares」。Fable と Opus の文脈長、用途、料金の比較。

https://platform.claude.com/docs/en/models/fable-5-2/overview

[3]　Google　Introducing Gemini 4 Neon

2026 年 11 月 18 日。PDF・図表・音声・動画の入力、業務評価、推論設定。

https://blog.google/innovation-and-ai/models-and-research/gemini-models/introducing-gemini-4-neon/

[4]　Anthropic　Claude Fable 5.2 and Mythos 5.2

2026 年 11 月 9 日。科学・工学分野の活用例、推論と視覚理解の改善。

https://www.anthropic.com/claude-fable-and-mythos-5-2

[5]　Google　Gemini 4 Carbon is now available

2026 年 11 月 10 日。探索的な科学研究、複数段階の推論、長時間の検証への適性。

https://blog.google/innovation-and-ai/models-and-research/gemini-models/gemini-4-carbon-now-available/

[6]　Artificial Analysis　Google Models: Intelligence, Performance & Price

「Intelligence」欄。Gemini 4 Neon と Gemini 4 Carbon の推論設定別の総合指数。随時更新。

https://artificialanalysis.ai/models/creators/google

[7]　独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）　J-PlatPat 操作マニュアル

第 4 章「共通の操作」4.2「経過情報を参照する」。審査記録と登録情報の照会手順。

https://www.inpit.go.jp/content/100884853.pdf

[8]　独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）　J-PlatPat 講習会でのご質問と回答

「共通」Q1。権利情報が反映されるまでの時間差と登録原簿の確認。

https://www.inpit.go.jp/j-platpat_info/lecture/qa.html